

1. 認知症の基本的理解

- 認知症とは
- 認知症の種類と特徴
- 認知症への対処

1) 認知症とは

定義

いったん発達した知能が(脳の器質的障害で) 病的に低下し
社会生活に支障をきたすようになった状態
一過性の意識障害は含まない

主な中核症状

- 記憶障害
- 見当識障害
- 失行(行為の障害)
- 失認(認知の障害)
- 失語(言語の障害)
- 判断力低下

「もの忘れ」(健忘)との違い

健忘	認知症
体験の一部	体験全体
自覚あり	自覚が少ない
急速な進行なし	進行性で悪化
生活支障なし	支障あり

「忘れた」ことを忘れている

アルツハイマー型認知症

- 原因：原因不明の脳の変性疾患による。
- 特徴： 緩慢な発症
全般性の認知機能障害
ゆっくりと確実に進行

脳血管性認知症

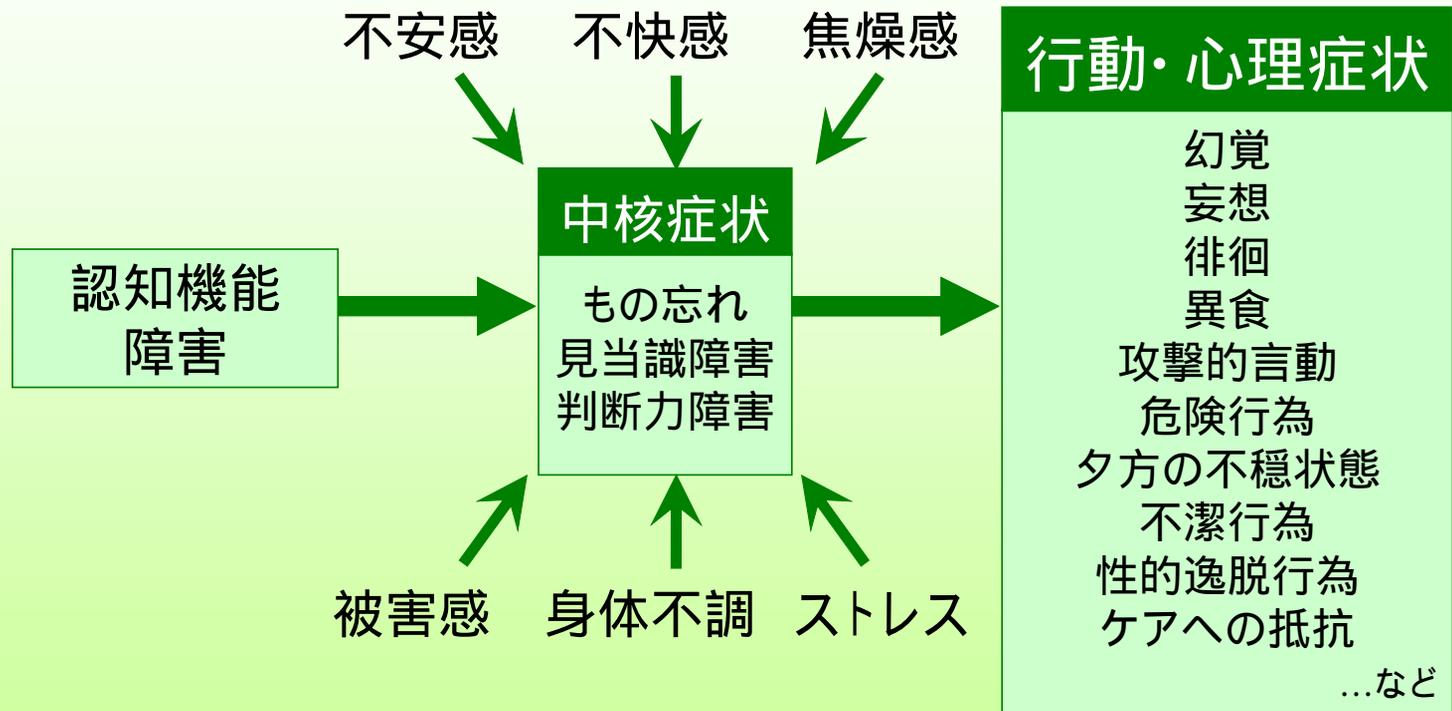
- 原因：脳出血、脳梗塞などの脳血管障害による。
- 特徴： 急激な発症
まだら状の認知機能障害
階段状の進行

その他の認知症

- 前頭側頭型(ピック病などによる)
- レビー小体病によるもの
- クロイツフェルト・ヤコブ病によるもの
- ヒト免疫不全ウイルス疾患によるもの...

* その他、ビタミンB(1, 12)欠乏症、アルコール中毒など、身体疾患によるもの、治療可能なものなどもある。

中核症状と行動・心理症状



2) 認知症の治療

- 薬物療法

抗認知症薬(アリセプト®)、脳血管障害の治療薬:中核症状へ
向精神薬(抗精神病薬、抗不安剤など):行動・心理症状へ
その他

- 非薬物療法(心理療法)

回想法

音楽療法

バリデーション

その他

- 外科的治療



治療可能な認知症も

2. 予防の可能性

- ・ 認知症の予防とは
- ・ 危険因子と予防因子
- ・ コントロールできる因子

1) 認知症の予防とは

●1次予防(発症を未然に防ぐ)

例: 食生活に気をつけて血管性障害を防ぐ

●2次予防(早期発見・早期対応)

例: ごく軽度の脳血管障害を発見して治療する

●3次予防(進行を防ぐ)

例: 脳外科治療・投薬などで血管障害の進行を防ぐ

2) 認知症の危険因子と予防因子



- 自分でコントロールできるものとできないものがある
- 危険因子を減らし、予防因子を増やす

3) コントロールできない危険因子↓

● 年齢

年をとるとともに発症率は増加する

● 遺伝子

一部のアルツハイマー病は特定の遺伝子要因が寄与する

● 性別

原因となる病気や発症率には性差がある

4) コントロールできる危険因子 ↓

- 高血圧
- 高脂血症
- 肥満
- 糖尿病
- 脂質の摂取
- 喫煙
- 頭部外傷

生活習慣の改善

早期発見・治療

...など

5) コントロールできる**予防因子**

● 食生活の改善

● 運動

● 睡眠・休息

● 知的活動

● 趣味

● 対人交流、家族との交流

最近注目されている

...など

6) これからの課題

● 早期発見・早期対応のための体制

もの忘れ外来

専門医

かかりつけ医

● 発症・進行を予防する・遅らせる方法

治療薬の開発

学習療法や認知機能の訓練など

生活の中での予防法